

令和4(2022)年度 道德実践事例原稿公募要項

日本道德教育学会研究委員会

日本道德教育学会「道德実践事例アーカイブ事業」とは、学会員のみならず広く道德教育に関わる関係者を閲覧対象とし、研究及び教育実践の促進および充実を目的に優れた実践記録をコンテンツ毎に学会ホームページ内で保存し、会員相互が日頃の研究や教育実践において研鑽し合ったり、未来への教育文化遺産として継承したりすることを目的に運営しているものです。

この事業は本学会研究委員会がその運営者となって優れた道德実践事例記録を公募したり、事例研究成果物を収集したりして、会員相互の交流や研究が促進されることを期待して実施しています。このような趣旨にご賛同いただき、積極的に道德実践事例をご投稿いただけますようお願い申し上げます。

令和4年6月12日 日本道德教育学会研究委員長 田沼茂紀

《道德実践事例原稿公募要項》

1. 事業目的 学会員の優れた道德実践事例原稿を公募し、その成果を会員相互で共有し合う。
2. 応募要件
 - (1) 本学会員であること。
 - (2) 公募する道德実践事例は幼児教育から大学教育、家庭教育・社会教育等も含めて対象とし、実践の目的や内容、教材開発や指導法の創意工夫、道德教育カリキュラムや指導体制等の創意工夫において斬新さ、有用性、論理的妥当性が明確で優れた実践と認められるものであること。公募事例原稿については研究委員会内にて複数名で応募原稿内容に係る検討を行い、採用要件を満たした実践事例についてはホームページで公表すると共に公開発表の場を設ける。また、採用要件を満たさなかった場合については研究委員会委員より改善コメントを付して返却する。
 - (3) 公募する実践事例原稿の分類は、以下の通りとする。(応募時に実践事例分類を明記のこと)
公募分類Ⅰ 道德科授業の工夫(教材活用・指導法・教材開発)に関する実践。
公募分類Ⅱ 道德教育カリキュラム・指導体制の工夫等に関する実践。
公募分類Ⅲ 上記以外の実践事例(家庭教育や社会教育での実践等)
 - (4) 応募実践事例は公刊雑誌や単行本に未発表のもの(研究発表等はこの限りではない)とし、実践テーマ、実践目的、実践方法、実践結果、実践についての全体考察と課題等、研究著作物として一定のまとまりある原稿となっていることを応募要件とする。執筆に際しては学会ホームページ内の実践事例原稿応募テンプレートを使用することとし、動画等での応募は受け付けない。
 - (5) 実践事例投稿原稿は学会ホームページにて公開することが前提である点を考慮し、A4用紙 横書き(Word 文書 40字×40行、最大8枚を基準とする)で作成し、学会ホームページ研究委員会情報バナー内の応募テンプレートへ貼り付けて研究委員長宛にメールにて提出するものとする。
[〒225-0003 横浜市青葉区新石川 3-22-1 國學院大學田沼研究室 学会研究委員長 田沼茂紀
TEL045-910-3707 / E-mail : stanuma@kokugakuin.ac.jp]
 - (6) 原稿応募締切りは、令和4年11月末日。
3. 応募原稿の内容適合確認手続きと採用可否結果の通知
 - (1) 応募原稿は研究委員会内にて事例内容確認を内規(学会HP参照)に基づいて実施し、事例採用要件を満たしていればコンテンツ毎に分類してHPにて令和5年度学会春季大会までに公開する。また、応募状況を踏まえつつ実践事例研究会を開催して多くの学会員に研究成果を周知していく。
 - (2) 応募原稿採用に係る内容確認結果は、研究委員のコメントも付して速やかに本人宛へ通知する。
4. その他 本事業の成果周知方法はホームページ公開に留まらず、オンライン実践事例研究会等で発表機会を設けて広く周知するようにする。また、学会機関誌『道德と教育』への論文投稿を促す契機となるよう、8月7日(日)15時よりオンラインによる「論文作成セミナー」も併せて開催する。